

名古屋大学 ACS メンタルヘルス担当およびソーシャルサービス室の活動報告（2014年度）

国際教育交流センターアドバイジング部門

ソーシャルサービス室

坂 野 尚 美

本報告書では「相談件数と内容」、「多文化ピア・サポーター」、「ソーシャルサービス室の支援状況」の3つに分けて報告する。

I. 相談件数と内容

2014年1月～12月までの相談件数と内容は、下記の表の通りである。留学生の心の病、異文化不適應や、さまざまな問題を抱えている留学生の心のケアおよび障がい留学生の支援を行った。

精神保健では、学内の保健管理室の医師から診断された留学生の病名では、発達障害、適応障害、気分障害、不安障害、境界性人格障害、双極性障害、統合失調症の順が多かった。国際教育交流センターアドバイジング部門内に、ソーシャルサービス室が設置されて1年半が経った。障がい留学生支援では、相談および実際の修学支援を行った学生のうち、発達障害がもつ

とも多かった。とりわけ、数学の学習が理解できない学習障害や読字障害が多く、修学支援を実施した。具体的には、学習支援（チューターリング）や文章の読み上げや入力作業の補助を行った。

留学生のメンタルヘルス相談では、1件につき、複数にわたる相談内容の場合があった（ただし上記の全報告のうち20名以下）。そのため相談件数は、のべ人数になっていない。相談内容の「その他」では、学内の学生相談総合センターの学生相談部門、メンタルヘルス部門、就職相談部門、障害学生支援室、ハラスメント相談センター、法務室等との連携のほか、留学生担当教員や指導教員などの教職員と共に支援を行った相談内容と件数を数値化した。学外の専門機関との連携をはかりながらの留学生支援等についても、「その他」の相談内容・件数に含めた。また「その他」では、留学生が来談者となる場合だけではなく、留学生宿舎内での人間関係のトラブルに関する相談も件数に含めて

相談件数の内訳

(2014年1月～12月)

相談項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
指導教員・研究室・進路	4	4	4	4	10	12	15	18	20	28	36	48	193
日本語・学業	5	6	2	2	6	12	8	3	11	16	25	32	108
入国・在留関係	0	0	3	6	6	4	0	2	1	2	0	0	24
宿舍	0	0	4	2	4	3	4	2	3	3	5	2	32
奨学金・授業料	1	4	4	6	8	4	4	2	3	8	6	4	54
生活・適応	6	12	11	12	17	24	26	15	10	44	56	62	295
家庭・家族	8	8	9	2	2	2	2	6	5	4	24	18	90
人生観	2	1	2	0	1	2	1	1	1	1	1	1	14
恋愛	2	4	6	2	6	3	1	1	1	1	1	1	29
精神保健	22	26	34	36	46	55	57	20	42	55	65	82	500
身体健康	3	4	4	6	7	9	11	6	10	18	36	40	154
障がい支援	26	28	36	40	48	26	52	28	48	61	72	86	551
国際交流	2	7	8	11	12	12	11	10	12	24	18	13	140
その他	28	46	52	54	66	72	86	56	92	88	166	154	960
合計	109	124	179	183	239	240	278	170	259	383	511	543	3,218

いる。こうした学内、学外での専門機関との連携が必要とされる場合の多くは、来談者（留学生など）が心の病を持っていた。

Ⅱ. 多文化ピア・サポーター研修の活動報告

多文化交流 巻きずしイベント 2014活動報告書

日時：18：00～20：00

対象：全学（主に留学生）2014年10月31日 28名

場所：フレンドリー南部

内容：障がい学生の自立（自律）につながる支援の一環として、本学全学の学生（とりわけ留学生）を対象とした講座。

寿司職人が巻き寿司の作り方を説明した後、それぞれのグループに分かれ、自分が選んだネタで巻き寿司を作る体験をした。また、寿司に関する歴史や知識を、クイズ形式で学び、寿司職人さんに聞きたいことなどを質問してもらい、多文化ディスカッションを行った。

参加者の感想

・今日は本当に楽しかった。職人さんとみなさんと一緒に寿司を作るのが最高。今度もし機会があれば是非参加したい。

・すごく良かった。本当に面白くて、どうやって寿司を作るかだけではなく、歴史や様々なタイプの寿司についても学んだ。知識が広がった。

・今日のイベントは外国人学生にとってとても良いし、役に立った。このイベントをやってくれたすべての方々、特にシェフにありがとうを言いたい。

・とても楽しかったです。おいしいお寿司をつくるために、色々なコツを教えてくださいありがとうございます。プロのシェフの下で作ってみることができて嬉しいです。

・どうやって巻き寿司をつくるのかをプロの寿司職人に習えるこのイベントが本当に大好き。本当に満足して、さらに学びたいと思う。

・プロの寿司職人の作る様子を見られて良かったです。さすが素早いです。家で作る時の参考になりました。下手ですが、少しでも近づければよいなと思います。

・今日は素晴らしかった。このイベントが大好き。こ

のイベントをやってくれてありがとう。日本料理の作り方のイベントをもっとやって欲しい。心の底から「どうもありがとうございます！！」

・本当に良かった。寿司が作れて、シェフからも学べてとても素晴らしいイベントだった。素晴らしい夜をありがとうございます。どのように寿司を作るのかを英語で書いたものを次回ください。待つのが大変なので、寿司をカットする人にもっと来てもらってください。

・とても楽しかった。知識も得られるし、実用的。

・はじめてどのように寿司を作るか学んでよい体験になった。



多文化交流 エクササイズプログラム 2014活動報告書

日時：16：30～18：00

対象：全学の教職員・学生（主に留学生）

4月25日 6名

5月16日 6名・23日 3名・30日 3名

10月24日 13名・11月14日 8名・28日 5名

12月12日 1名

場所：東山キャンパス第2体育館

日時：18：00～19：00

対象：全学の教職員

3月3日 14名・13日 5名・20日 9名・

26日 15名

場所：東山キャンパス第5体育館

目的と内容：障がい学生の自立（自律）につながる支援の一環として、本学全学の教職員・学生（とりわけ障がいを抱える方）を主に対象とした講座。

エクササイズプログラムではヨガ、ダンス、エアロビクス、ボクササイズなど、呼吸法を取り入れたエクササイズでリラクゼーション効果および身体のバランスを整える運動をした。また、参加者同士の非言語コミュニケーションの在り方やリラクゼーションについて学んだ。毎回、好評だったが、特にヨガは参加人数も多く、プログラム自体の人气が高いということもあってか特に評判が良かった。

参加者の感想

・思っていたよりしっかりした運動だった。汗もかけて、よい運動ができた。

ボールタッチが楽しかった。

・楽しかった。エクササイズ前後で足の裏の感じが違い、感動した。

・スポーツをして体を動かして、新しい人と出会いがあって、とても楽しかった。ありがとう。

・本当によかったです。時間がもう少し長かったらよかったなと思います。次回もよろしくお願いします。

・それぞれ違う文化を持つ留学生をまとめたり、助けたりしてくれた先生の努力がすばらしいと思った。

・今日のセッションは、名古屋生活の中で良い経験になったし、楽しかった。

・リラックスできました。冬はもっとエクササイズができる健康に良いと思いました。ありがとうございました。もっとたくさんの人（学生）がこのクラスを知ってくれたら良いと思います。

多文化交流 日本舞踊講座 2014活動報告書

日時・参加者：（留学生対象）12：00～13：00

6月18日 4名・25日 3名

10月15日 4名・29日 3名

11月5日 5名・19日 21名

12月10日 1名・17日 3名

（教職員対象）19：00～20：00

3月13日 3名

場所：東山キャンパス第5体育館

目的と内容：障がい学生の自立（自律）につながる支援の一環として、本学全学の学生（とりわけ障がいを抱える学生）を主に対象とした講座。

日本伝統芸でもある日本舞踊、実際に着物を着て、踊りを楽しみながら、心や美の表現はもとより、着物の着付け、礼儀作法を同時に学んだ。

盆踊りや簡単な踊りも教えていただきながら、日本の文化も学んだ。

身体を動かし、有酸素運動を多く取り入れ、リラッ



クスし楽しく参加していただいた。日本舞踊にあまり興味がなかった留学生も、友達に誘われて一度参加すると、何度も参加してくれた。

参加者感想

・浴衣がきれいでした。音楽とあわせて踊ると思っていましたが、今日は違う内容をやってちょっとびっくりしました。でも、ストーリーを述べながら楽しかったです。個人的には男性の踊りの方が好きです。

・毎回、とても興味深く、面白いです。たくさんのことを学び、きれいな浴衣を着る機会ができました。ありがとうございました。

・とても楽しかった。また参加したいです。本当にありがとうございました。

・ほんとうにありがとうございました。とても楽しかった。先生がとても良かったです。

・とてもとても気に入りました。ぜひ続けられたらいいと思います。先生がとても優しいです。この舞踊講座を開いていただきありがとうございます。

・日本舞踊を踊ったのは初めてでした。すごく良かったし、忘れられないひと時になりました。

・すごく楽しかったです。留学生の私にとっていい思い出になりました。日本の文化を体験できてよかったです。ありがとうございました。

Ⅲ. ソーシャルサービス室の支援状況

独立行政法人日本学生支援機構（2014年5月1日）の報告では、2014年度の全国の大学、短期大学及び高等専門学校を対象に障がいのある学生（以下、「障害学生」という）の修学支援に関する実態調査を実施したところ、障がいのある学生数は全体で14,127人（前年度13,449人）であり（全学生数に対する割合は0.44%となり平成25年度よりも増加傾向にある。ソーシャルサービス室では、身体障がいをもつ留学生は2名（教職員の相談1名含む）、精神障がい20名（教職員からの

相談1名含む）、発達障がいを抱える学生が7名おり、そのうち支援を受けているものは29名いる。

2014年2月に、日本は障害者差別撤廃条約に批准した。それを受けて障害者差別解消法（障害者差別撤廃条約）は、2016年4月より障害者が他の人と平等に、住みたい場所に住み、受けたい教育を受け、地域社会におけるサービスを利用できるよう、障害者の自立した生活と地域社会への包容について定めている。さらに、条約の内容が実施されているかを監視する機関を国内に設置することが明記されている。障がいのある者の権利を守る条約や法律が制定される現況では、大学としての「合理的配慮」の提供は義務付けられるのは言うまでもない。障がい留学生のニーズの把握に努め、支援ニーズの多様性に対応していくことが求められる。そのため、ソーシャルサービス室は、学内の障害学生支援室と定期的に会議を開催し、学内でのFDおよびSDの実施をする上でも連携強化する必要がある。

名古屋大学の留学生が3000人に達した場合には、おおよそ7-8%の障がい留学生が在籍することになることも踏まえ、どのような対応や準備が必要であるのか、検討する必要がある。名古屋大学における障がい留学生数は急激な増加がみられ、今般の障害者関連諸法の整備を受け、今後もさらに増えていくことが予想される。一方、世界の主要先進国では積極的な取り組みを始めており、ケンジブリッジ大学では障害学生の割合は、8.1%、アメリカのワシントン大学も8%である。今後の大学のグローバル展開において、修学支援の充実を整備していない実情は大きな支障ともなりえる。今後、名古屋大学内での障がい留学生の支援モデル構築を目指していく。発達障害をかかえる留学生の修学支援を全国の大学では殆どしていないが、障がい留学生に対する公平・公正な修学支援、多様化するニーズに対応していくため、支援体制を強化し、支援内容の高度化、支援の質を充実させることが喫緊の課題である。